



[フルートロニクス]

## FLUTRONIX

洗練と斬新を混ぜた  
新感覚フルート・ミュージック

Groove Quest 04 ✓

Interview&text : Matsunaga Takahisa, photograph : Kurihara Daisuke

### 「フルートの持つ堅苦しい先入観を壊したい」

フルートをメインに、R&Bやエレクトロニカ、ジャズ、クラシック、ポップスなどさまざまなサウンドをブレンドして、独自の洗練された音楽を制作しているN.Y.発のナタリーとアリソンからなる女性デュオ、フルートロニクス。ナタリーはこれまでヴァンパイア・ウイークエンドをはじめとするアーティストと共に、アリソンもブルックリン・ハーモニックに在籍経験があるなど、個々の実力が認められている彼女たち。そんな二人が、インターネットを通じて出会い、2008年から活動を開始している。

「私がネットサーフィンしている時に偶然、アリソンのページを見たの。同じフルート奏者であり、それを用いて新しい音楽を作ろうとしている姿勢に共感して、すぐにコンタクトをとったわ。すると、同じブルックリン在住であることが判明して(笑)、活動を開始することになった」(ナタリー)

地元を拠点に徐々に知名度を高めてきた彼女たち。今年に入ると、ジェイ・Z作品も手がけたプロデューサー、スキー・ビーツと出会い、さらなる注目を集め、6月には日本デビュー盤『2.0』をリリース、7月には来日公演を果たした。

「何度かサポート・ミュージシャンとして来日したことはあるんだけど、今回アーティストとして日本のステージに立てたことに感動しているの」(ナタリー)

「このアルバムは私たちだからこそ表現できる音楽を構築できた自信のある仕上がりだったから、こうやって世界の人に聴いてもらえて、多くの人が楽しんでくださっている様子を体感することができて、本当にうれしいわ」(アリソン)

本作で2枚目となるアルバムには、ユーズリミックスの「SWEET

DREAMS」のカバーも収録。フルートの美しいハーモニーに、さまざまな要素が絡んだサウンドとヴォーカルは、シルクのような肌触りのよさがありながらも、それだけでは終わらない興奮と感動が静かに流れている。「私たちは、この音楽を『アーバン・アート・ポップ』と呼んでいるの。多くの人の耳になじむポップ性がありながらも、オルタナティブでアヴァンギャルドもミックスされたようなユニークな音だと思う」(ナタリー)

また、歌詞の部分でも自分たちらしさのことの大切さを表現しているという。

「フルート奏者というと、クラシックばかり聴いている堅苦しいイメージを持っている人って結構いるの。また、その他の場面でも誰かの固定観念によって、自分の思い通りのことができないフラストレーションを抱えることがあるわ。それを歌詞にしているの。決めつけないでってね(笑)」(ナタリー)

洗練されていながらも、芯の強さや個性を感じさせる彼女たち。そのスタイルはファッションからも伝わってくる。

「N.Y.って、どういう格好をしていても認めてくれる雰囲気があるから最高よね。例えば何百ドルもするドレスに、10ドルくらいのスニーカーをあわせたコーディネートでも、クールでいられるし。そういう街の柔軟な空気が、音楽にもいい影響を及ぼしていると思うの」(アリソン)

今後も柔軟にさまざまな音楽や街の空気を吸い込んで、彼女たちのサウンドは進化していくのだろう。

「今回のアルバムはエレクトロニックな要素が多かったから、次はもっとアコースティックな音を取り入れてみたいとか。いろんなアイデアがあるわ。将来はネクスト・レベルへ導けるような音を作りたい」(ナタリー)

### New Release



『2.0』  
FLUTRONIX  
now on sale